

うつ病の看護を深めましょう！～「日本うつ病学会うつ病看護ガイドライン」の活用方法と事例検討～

○香月富士日¹⁾、青木 裕見²⁾、岡田 佳詠³⁾、河野佐代子⁴⁾、木村 洋子⁵⁾、小高 恵実⁶⁾、
小山 達也²⁾、佐藤 寧子⁷⁾、玉木 敦子⁸⁾、野末 聖香⁹⁾、船越 明子¹⁰⁾、松浦 彩美¹¹⁾

1) 名古屋市立大学大学院看護学研究科、2) 聖路加国際大学大学院看護学研究科、
3) 国際医療福祉大学成田看護学部、4) 慶應義塾大学病院、5) 同志社女子大学看護学部、
6) 上智大学総合人間科学研究科、7) 慶應義塾大学SFC研究所、8) 神戸女子大学看護学部、
9) 慶應義塾大学看護医療学部、10) 神戸市看護大学、11) 順天堂大学医療看護学部

うつ病は長期にわたり思うことが多く、そのためうつ病を持つ人ご本人はもちろんのこと、家族や社会、仕事にも多くの深刻な影響を与えることが知られています。世界30カ国の平均ではうつ病生涯有病率は10.8%といわれています。日本の調査では生涯有病率は6.2%、過去12カ月間に2%の方がうつ病を経験しています。またうつ病の方は過去12カ月間に平均22.1日間の仕事や家事が出来ない日があり、それは慢性身体疾患の約4倍ということでした。うつ病は再発も多く、慢性化しやすい病気ということも知られており、また精神疾患や身体疾患との併存も多いため、多くの方が日常的に看護しておられることと思います。軽症うつ病治療の第一選択は薬物療法ではないことが示されていますが、では具体的にどのようなケアをするといいいのでしょうか？うつ病をもつ方やそのご家族への看護をあらためて勉強する機会は少ないのではないのでしょうか？

日本うつ病学会は、「うつ病看護ガイドライン」を作成・公表し、現在は改訂作業を行っています。今回は、うつ病看護ガイドラインをより深く知り活用

していただくためにWSを企画しました。うつ病看護ガイドラインを活用ししながら、うつ病看護の基本やうつ病看護で活用する技術などを講義や事例検討を用いて理解し、ガイドラインを実践の場で活用する視点や方法を学ぶ機会にしたいと思っております。

なお、ご参加の方は、事前に日本うつ病学会のホームページから「うつ病看護ガイドライン」をダウンロード（無料）していただき、当日ご持参いただけますと、より効果的かと思います。

当日の予定

- 1, うつ病看護の原則とアセスメント
- 2, 重症度に応じたうつ病看護
- 3, 対象に応じたアセスメントと看護のポイント
- 4, 事例を用いた演習（介入技法の紹介含む）

倫理的配慮：配布する事例は架空の事例ですが、終了後に回収させていただく予定です。